

広報広聴関係について

各種事業名	概要	開催場所	対象者	内容	教育委員会関係件数 (H30.5定例会教育委員会 会議以降新たに市のホーム ページに公開されたもの)
市長とドンドン 語ろう!	市長が各区に出 向き、まちづくり について直接市民 と対話する。	各区公民館 ホール等	各区内にお 住まいの 方、勤務さ れている方	まちづくりについて〔市 長〕 意見交換(市長、出席者) (平成27年度開始)	3
市民の 声	市長への 手紙		どなたでも	市民が、まちづくりセン ターなどに置いてある緑の封 筒で意見や提案を送る。	4
	わたしの 提言			市民からのまち づくりについての 意見や提案を市政 に反映させる。	

各種事業名	No.	開催日 受付日	提案・要望内容	回答内容
市長とドンドン語ろう！in南部	1	H30 1月	<p><b>平成さくら支援学校を指定避難所として利用できないか</b></p> <p>校区内に平成さくら支援学校ができた。大地震のときに日吉東1町内から日吉東小学校に誰も避難していない。遠いからである。数人は田迎西小学校に避難したが、ほとんどは中央公園に車中で避難した。近くにある支援学校を、ぜひ指定避難所にしてほしい。</p>	<p>【市長】</p> <p>自治会長からのご意見を踏まえて避難所について考えていきたい。今すぐこうしますとは、ここでは回答できないが、我々が経験したことの教訓は活かされなければならない。ご意見を言っていたことで今後支援学校を含めた検討をしていくことになる。</p> <p>避難所も指定すればいいということではなく、どのように運営していくか、設備面、スタッフをどうするかなど検討しなければならない。しかし、何年もかかるということではない。</p> <p>【危機管理防災総室】</p> <p>支援学校を日吉東校区の指定避難所として利用することについては協議を行い、現在準備中である。地域の近くに避難所があるということが大事なので、校区防災連絡会の中で準備していきたい。来年度までには結論が出せると思う。</p>
	2	H30 2月	<p><b>夕方のミュージックチャイムについて</b></p> <p>私は小規模保育事業の園長をしており、3人の子どもの親でもある。</p> <p>私が子どもの頃は（市外在住であったが）、17時と19時にチャイムがなっており、外で遊んでいるときに帰る時間がわかって良かった。今でも川尻校区で流れているのだが、音が小さいため気づかない。子ども達に知らせて自分達で帰ってくるシステムができればいいと思う。</p>	<p>【市長】</p> <p>夕方のミュージックチャイムの音が小さいとのことだが、これは昔から学校で鳴らしているものかと思われる。川尻地区で現在のミュージックチャイムをどこが鳴らしているかについては後日確認する。</p> <p>音が大きい、うるさい等のご意見もあると思うが、不快にならない程度であれば、チャイムで子ども達が気づくことができる。</p> <p>地域によっては現在も鳴らしているところがあるので、確認し、活かしていけることがあればやっていきたい。</p> <p>-----</p> <p>【広聴課 追記】</p> <p>学務課、南部・富合まちづくりセンターからの情報をもとに、発言者へ連絡済。</p> <p>【学務課 確認】</p> <p>川尻小学校にはミュージックチャイムの設備はない。昭和50年代に民間企業からの寄贈により市内24小中学校に設置。その後、老朽化に伴い使用できるものが少なくなり、現在では、6箇所のみ。</p>
	3	H30 3月	<p><b>部活動と土曜授業について</b></p> <p>熊本県と愛知県は部活動が盛んで、2週間に1回くらいしか休みがなく、土曜日も朝6時半か7時くらいからやっている。親御さんたちの中には、子どもたちが部活動をしていなかったら何してるかわからないからやらせておいたらいいとも言う方もいるようだ。</p> <p>しかし、子ども達の将来を考えて、自分でやるべきことを自分で見つけていくという選択肢を与えていく上でも、教育委員会で、部活動のあり方について検討いただけないか。</p> <p>土曜授業の復活は、各市町村にまかされていると思うが、隔週でも土曜授業の復活を検討してはいかがか。小学1～3年生においては6時間授業が負担になると思う。</p>	<p>【教育委員会】</p> <p>土曜授業については、今年度までモデル校を設けて検証作業を行っており、来年度から年4回程度、市内の全小中学校で実施する。</p> <p>部活動については、特に中学校において過熱だという意見もあり、教員の働き方改革や総合教育会議等においても十分検討した上で進めていきたい。</p> <p>【市長】</p> <p>部活動については、さまざまにご意見をいただいております。総合教育会議の中でも、話が出ている。</p> <p>完全に土曜授業を復活するわけではないが、今後検証しながら効果があれば進めていきたい。</p>

市民の声	4	H30 3月	<p><b>小学生の学童保育について</b></p> <p>子供の学童保育の時間帯が18時までと少し早いので、お迎え等に間に合いません。 延長として長い時間を設定していただくことはできないでしょうか？</p>	<p>現在、本市が運営する児童育成クラブの開所時間は午後6時までとしております。 この時間設定は、低学年児童にとって朝の学校生活の始まりから長時間にわたり集団生活を送ることによる体力やストレスなどの健康面の負担、翌日の学習や生活に支障のない時間等を考慮しているものです。 また、クラブへの送迎については、学校の登下校と同様に必ずしも保護者の送迎は必要としておりません。ただし、できるだけ一人で帰ることがないように、帰りの会終了後に一斉下校を実施しております。個々に送迎を必要とされる場合は、ファミリー・サポート・センター熊本やシルバー人材センターの育児サービス事業の案内を行っております。 今後も、安全・安心な子どもの居場所づくりのために取り組んでいきますので、ご理解ご協力についてよろしく願いいたします。</p>
	5	H30 3月	<p><b>児童育成クラブ預かり時間延長について</b></p> <p>現代社会では共働き世帯が大多数を占めていると思うが、育成クラブの預かりが現在18時までとなっているのは、正社員として働く親にとっては校区内の小学校へ18時までに行くことが大丈夫な方は更に少ないと思う。という理由で、子どもの小学校入学時に退職せざるを得ない人が多い(私の職場でも何人かいらっちゃった)。 保育園の預かり時間が19時なので、育成クラブも同じ位の時間にして頂きたいのが働く母親からの希望である。 母親の就労状況の継続のためには公的サービス(特に両親、兄弟姉妹のいない人や転勤で実家から遠い方など)。 現在 育成クラブ利用の家庭へアンケートなど、データをとれば時間延長希望者が大多数と思う。是非検討してほしい。 危険な人も多い時代になったので預かりの学年も希望あれば6年生まで大丈夫という門戸を広げて預けることも同様にお願ひ出来れば安心して働ける。検討をお願いします。</p>	<p>現在、本市が運営する児童育成クラブの開所時間は午後6時までとしております。 この時間設定は、低学年児童にとって朝の学校生活の始まりから長時間にわたり集団生活を送ることによる体力やストレスなどの健康面の負担、翌日の学習や生活に支障のない時間等を考慮しているものです。 また、クラブへの送迎については、学校の登下校と同様に必ずしも保護者の送迎は必要としておりません。ただし、できるだけ一人で帰ることがないように、帰りの会終了後に一斉下校を実施しております。個々に送迎を必要とされる場合は、ファミリー・サポート・センター熊本やシルバー人材センターの育児サービス事業の案内を行っております。 児童育成クラブの開所時間延長や高学年受入れについては、要望があることは承知しておりますが、入会児童の増加により指導員の十分な確保ができないことや、クラブ施設の確保等の課題も多く、現状のクラブ環境の改善を優先的に行っているところです。 子育てしやすい環境を整えていくことは大変重要であるため、安全・安心な子どもの居場所づくりのために、地域との連携を含めた様々な方策について検討していきたいと考えております。</p>
	6	H30 3月	<p><b>小中学校の防災対策及びヘルメットや防災頭巾の配備について</b></p> <p>熊本地震後、自主防災クラブを結成したり、防災の会合へも通い「防災力」を我が事として考えようとしている。わが子の学校での防災対策はどうなっているかも心配するところである。 「くまもと市議会だよりH30.3月号」で市議の質問に「各家庭での防災頭巾の作成に取り組んでいただくよう各小学校に通知する」との答弁があった。「作成」とは手作りなのか。高い耐衝撃性、耐燃性などが求められる防災頭巾を各家庭で作れるとお考えだろうか。バスタオルや綿などを使えば、燃える危険は格段に上がる。かえって「防災」に役立たないと思う。 質問した市議に確認したところ「ヘルメットや防災頭巾は安全に役立つものであり、手作りは論外である」とのこと。安全・防災対策として不十分であるとの意見も伺った。 ヘルメットや防災頭巾の市による購入が財政的に困難であるなら、性能の保障された製品を紹介するなどの方策もあると思う。また、性能の定かでない「防災頭巾の作成」を市が通知したとなれば、その結果、事故が起きたときの責任は市にあると考えてもいいのだろうか。 地震のあった熊本でのこのようなお粗末な愚策の撤回を求め、安全な教育現場にするためにどのような対策を考えるのか、回答を求める。</p>	<p>本市においては、これまで、防災ヘルメットや防災頭巾の導入に向け、個人所有にするのか、学校備え付けにするのか等の検討を行ってまいりました。その結果、防災教育における「自助」の観点から、個人で所有するものとして今回の取組みを進めております。 ご指摘のとおり、タオル等で作製した防災頭巾は市販のものに比べ、耐燃性や衝撃吸収性等において劣ることは認識しております。 しかしながら、さまざまなご事情がお有りのご家庭もありますので、教育委員会から一律に経済的なご負担をおかけすることがないようにと、家庭でもできる防災頭巾作製について通知させていただいてるところです。なお通知文には作製の他、購入も可としておりますので、学校によっては各ご家庭に購入を勧められているところもあるかと思います。 この取組を通じて、児童や保護者の防災意識の高揚にもつながり、本市が目指す災害に強く、安心して安全に暮らせるまちづくりにも寄与するものと考えておりますので何卒ご理解いただきますようお願いいたします。</p>

市民の声	7	H30 4月	<p><b>博物館工事の進捗状況について</b></p> <p>熊本地震の影響で博物館の工事の進捗が滞っていることは理解できる。いつ頃開館するかを市民に伝えることも博物館が忘れられないために必要な広報活動ではないか。</p>	<p>当館は、改修工事のため全館休館させていただいており、ご迷惑をおかけしております。</p> <p>当初、平成29年秋ごろのリニューアルオープンを予定しておりましたが、熊本地震の被害調査等が必要となり、工期変更を余儀なくされました。</p> <p>現在、展示内容を一新した博物館を一日も早く皆様にご利用いただけるよう、平成30年12月中の開館を目指し整備を進めているところです。</p> <p>いただきましたご提言のとおり、開館に向けた動きを市民の皆様へお伝えしていくことは大変重要なことと考えております。この動きにつきましては、当館ホームページ「熊本博物館リニューアルのあゆみ」に掲載しておりますので、ご覧いただければ幸いです。</p> <p>今後も、順次新しい情報を発信してまいりますので、当館をよろしく願いいたします。</p>
------	---	-----------	--	---